

製品ポートフォリオの拡大

オートフォームジャパン 社長
鈴木 渉氏



すずき・わたる
1979年生まれ、千葉県出身。横浜国立大学大学院工学府修了後、IT専門商社を経て、2011年オートフォームジャパン入社。19年副社長、22年社長就任。現在に至る。

オートフォームジャパン（東京都港区、03・6459・0881）はスイス・オートフォーム社の日本法人として2007年に設立された。シミュレーションソフトウェアでは後発となる同社はプレス成形に特化し、圧倒的な計算速度を強みに自動車産業を中心にユーザー数を拡大してきた。最近ではアッセンブリシミュレーションを製品ラインアップに追加するなど、車体製造工程の全体最適を支援する。22年7月に社長に就任した鈴木渉氏に現在注力している取り組みや、今後の展開などを聞いた。

日本での事業を振り返る中で、素早く検証できることで、導入が進んだ。その後、自動車メーカーにも普及

1995年にオートフォーム社がプレス成形シミュレーションソフトウェア「Forming」の販売を開始し、同時に日本でも発売された。日本でも最初に広がったのは金型メーカーだった。計算速

度が高く、素早く検証できることで、導入が進んだ。その後、自動車メーカーにも普及

度が高く、素早く検証できることで、導入が進んだ。その後、自動車メーカーにも普及

製品の特長は、一つは、プレスに特化していること、もう一つは、も

製品の5〜50倍で計算できること、もう一つは、も

この人 2023 に聞く

提案は行っていたが、それぞれの課題を解決することが顧客のどんな価値につながるかまでは提案できていなかった。今は製造プロセス全体で最適化が図れるような提案に力を入れていく。

製造工程の全体最適支援 解析が生む価値、顧客と議論

製品ポートフォリオを広げている。21年には後には実用化できるはずだ。

従来の5〜50倍で計算できること、もう一つは、も

今後の目標は、日本はまだ潜在的な需要が高く、重要な市場の一つと位置付けている。金型メーカーを始めとした日本の製造業の競争力強化に貢献し、年率15〜20%程度の成長を目指していきたい。